

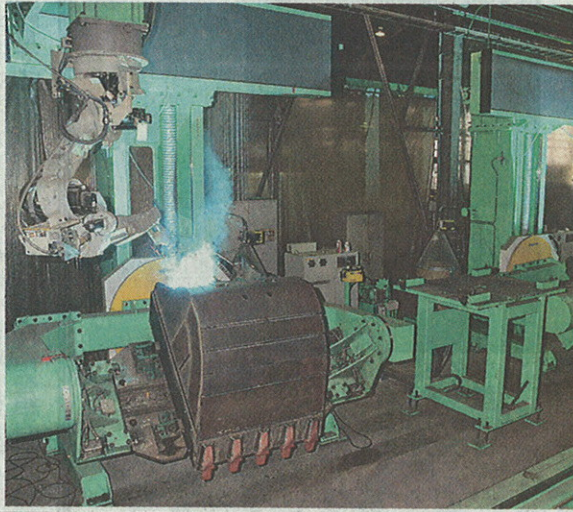
丸栄製作所

溶接ロボ本格稼働

中型バケット 生産能力4割増

建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所（射水市鷲塚・小杉、今牧繁社長）は、主力の中型バケット生産で溶接ロボットを本格稼働させ、生産能力を4割アップさせた。

世界的な建機需要の拡大を背景に、さらに増産対応しており、輸出を伸ばしている。溶接ロボットの導入は、土砂などを採掘する建機のシヨベル部分。経済成長が活発なブラジルやインド、中国、ロシア、東南アジアなどで需要が拡大している。輸出を伸ばしている。



中型バケット製造で本格稼働した溶接ロボット

建機メーカーからの受注が好調に推移している。従来は月産四百五十個体制だったが、三年ほど前から受注増に対して生産が追いつかず、納期が遅れる状態が続いた。

今春、最新鋭の溶接ロボット六台を導入。操作の習熟期間を経て、八月までにロボットの稼働率が約八割上がった。六台の操作は一人で行うことができ、省力化を図りながら月産六百五十個体制を実現した。

北京五輪が開かれる来年までは需要の拡大が続くとみており、この一年間でさらに約三億五千万円を投資する計画。機械加工や組み立て、仕上げなど、溶接の前後工程の設備を強化し、月産七百

五十台に引き上げたい考えだ。また、溶接方法もより綺麗な仕上がりと強度が保てるアルゴン溶接に切り替え、品質の向上を図る。超大型バケットの受注も伸びており、19年1月期で三十七億円だった売上高は、今期四十四億円を見込んでいる。